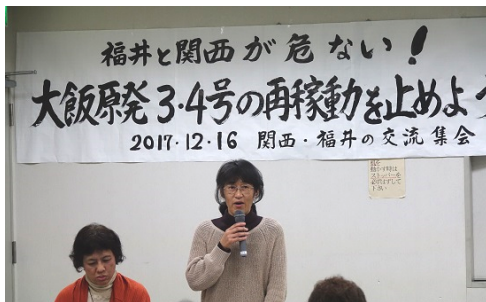


大飯原発3・4号の再稼働を止めよう！ 12/16関西・福井の交流集会

## 広島高裁仮処分決定、ゲストのお話、福井・関西各地の取り組みがつながり 大飯原発再稼働阻止、「中間貯蔵施設」反対の熱気にあふれた集会



12月16日、大津市ふれあいプラザの会場は、福井と関西2府4県全てから集まった84名の参加者で満席になりました。避難計画を案ずる関西連絡会主催の交流集会は、3日前（12月13日）、広島高裁の伊方原発3号機仮処分決定の勢いを大飯原発再稼働阻止に繋ぐような生き生きとした雰囲気で行われました。

### 第1部 ゲストのお話

まず始めに、伊方原発弁護団の鹿島啓一弁護士から、広島高裁仮処分決定について報告<sup>※1</sup>がありました。決定から3日後で超多忙な中で集会に駆け付けてくださいました。福島原発事故後、民事訴訟で、高裁で初めての原発運転禁止を命ずる決定であること、被爆地広島で「被ばくを拒否する」住民の思いが実ったこと、火山問題での勝利は全国の原発に波及することなど決定の重要な意義が語られました。また、運転差し止めは2018年9月30日までの期限付きであり、地震動に対する原発の安全性については四国電力や規制委員会の判断を認めている点等の不十分さはあるにしても、次の闘いの足がかりになると強調されました。限られた時間の中で、ポイントを押さえた分かりやすいお話でした。

原発地元おおい町で、日々地道に活動されている宮崎宗真さんのお話は、身につまされるものがありました。議会・行政とも抵抗なく原発を受け入れ、周辺自治体を顧みることなく単独の同意表明をするという中で、小さい学習会を積み重ね、町職員や議員に情報提供を続ける姿には頭が下がりました。そんな議会でも神戸製鋼のデータ改ざんに関わる問題では、関電の説明に対する追及が止まらなかったそうです。関西の皆さんは原発由来の電力を使わないなどの方法で、周囲から追い詰めて下さいと訴えられました。

福島原発事故避難者の菅野みずえさんからは、国の帰還政策について、帰還困難区域である浪江町でも年50mSv以下の地域を数年先に「帰還の拠点化」とする動きが進んでいること等が紹介されました。原発事故からの避難は不可能、唯一の避難は原発を止めることと、体験を交え説得力のあるお話でした。

美浜の会代表の小山英之さんは、①関電が示す大飯原発事故による被ばく量が異常な過小評価であること、②島崎証言による、またデータ改ざんを含む大飯原発基準地震動の過小評価、③「中間貯蔵施設」は永久の核ゴミ捨て場になることの三点について、15分という短い時間で要領よく説明<sup>※2</sup>されました。また、広島高裁の仮処分決定内容を紹介し、大飯原発でも火山灰の空气中濃度が過小評価<sup>※3</sup>になっており、再稼働を止めていこうと話されました。

## 第2部 各地の取り組みと交流

●福井県若狭町の石地さんから、原発にはさまれた若狭町民の思いを明らかにするために、11月に行った対面アンケート結果の報告がありました。11月27日、福井県西川知事は大飯原発再稼働に同意しましたが、若狭町民の思いは知事と全く違いました。大飯原発30km圏内UPZにすっぽり入る若狭町は、同意権もなく住民説明会すら開かれていません。アンケート結果を言葉にすれば「再稼働の同意30km圏内にも必要、町は説明会を開くべき、避難はできない、再稼働はするな、これが若狭町民の民意です」と力強く話されました。



●京都府北部の児玉さんは、京都府南丹市美山町の取り組みや綾部市中上林地区（人口およそ1,000人560戸）を全戸訪問した様子を語られました。30km圏内の美山町では安定ヨウ素剤の事前配布に向けた取り組みが、市議会への要請等で進んでいることを紹介されました。地図をパワーポイントで示しながら、綾部市の避難道路である府道1号線はわずか1.9kmのバスパス工事だけで、とても避難できないため再稼働を止めていこうと訴えました。

●滋賀県からは井野さんが、滋賀県への申し入れや、大飯原発UPZ圏高島市今津・朽木を戸別訪問した時の様子を紹介してくれました。3年前の台風で崩落したままの崖の写真を交えて語り、戸別訪問で聞いた多くの住民の再稼働反対の声を紹介してくれました。

続いて、高島市の中平さんが、滋賀県や高島市に全ての住民が納得できる説明会を求めてきたにも関わらず、区長や職員に限られた1回だけの説明会について住民無視への抗議も込めて説明してくれました。

●滋賀県高島市の避難先である大阪府からは久保木さんが、大阪府、枚方市、高槻市への申し入れについて報告されました。最低限決めなければならない避難所さえ決めていないこと、事故が起こってから使える施設を探すというひどい内容を分かりやすいパワーポイントで説明してくれました。しかし申し入れをしたことで、滋賀県との意見交換やテレビ会議も始まったそうです。市民が声を上げていくことの大切さを感じる話でした。

●兵庫県からは、綾部市上林地区の避難先である太子町への申し入れについて森さんから報告がありました。小さい自治体で、原発からの距離も遠く何もかもこれからという印象でした。申し入れは、太子町が原発防災について考えるきっかけを作ったようです。そして、脱原発はりまアクションの西脇さんから、毎週続けている金曜行動や関西電力への申し入れの報告がありました。

次に、「中間貯蔵施設」に反対する活動紹介と訴えがありました。

●京都府からはアイリーンさんが、福井県西川知事が大飯原発再稼働に同意した11月27日早朝より京都府に申し入れを行った話をされました。福井県知事は使用済み核燃料の「中間貯蔵施設」の県外立地を条件に再稼働に同意しましたが、申し入れで京都府防災課は「京都府は一貫して受け入れない」と表明しました。関電や福井県知事の思い通りにはさせない、各地で

受け入れを拒否していこうと呼びかけました。

●それを受けて和歌山県から松浦さんが、30年にわたる取り組みを報告されました。日高・日置川原発新規立地阻止を勝ち取った後も、関電は諦めず、火力発電所の建設や中間貯蔵施設の建設を目論んでいます。白浜町日置川には、これまでも関電職員が2名常駐していましたが、今年度から4名に倍増し、町への懐柔策にも余念ないとのこと。長期に渡って関電の動きを監視されている活動に感銘しました。

## ◆意見交換と集会アピールの採択

最後に、短い時間になりましたが、原発事故の避難計画を卒論のテーマにし、綾部市の戸別訪問にも参加した学生さんや大飯原発名古屋高裁金沢支部での裁判原告の方、国相手の大飯原発止めよう大阪地裁原告より現状の報告と裁判傍聴呼びかけなどがありました。京都の金曜行動参加者から、各地の日々の取り組みを聞いてとても勇気づけられ、共に頑張りたいという発言がありました。朽木の自然を愛し移住された加藤さんから寄せられたメッセージが代読されました。「この美しい自然を、私たちの世代で壊すわけにはいきません。原発を動かすことに反対します」。

司会から、今日の交流集会の力を引き継ぎ、広島高裁の決定を踏まえ、大飯3・4号の再稼働も「中間貯蔵施設」にも反対し、住民説明会等を求めて活動を一層強化しようと訴えました。豊富な内容で予定の時間を超過しましたが、アピール<sup>※4</sup>を採択して交流集会を終了しました。

2017.12.20

避難計画を案ずる関西連絡会

連絡先団体：グリーン・アクション／原発なしで暮らしたい丹波の会／  
脱原発はりまアクション／原発防災を考える兵庫の会／美浜の会

※1 広島高裁の伊方3号機仮処分決定の意義について（伊方3号機運転差止仮処分裁判 弁護団 鹿島啓一さん）  
<http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/kasimal71216.pdf>

※2 関電の被ばく過小評価批判、地震動の過小評価批判、中間貯蔵施設反対（小山英之さん）  
[http://www.jca.apc.org/mihama/ooi/hibakuhyoka\\_etc171216.pdf](http://www.jca.apc.org/mihama/ooi/hibakuhyoka_etc171216.pdf)

※3 火山灰の資料（小山英之さん） <http://www.jca.apc.org/mihama/ooi/kazanbail71216.pdf>

※4 アピール 大飯原発3・4号の再稼働を止めよう！ <http://www.jca.apc.org/mihama/ooi/appeal171216.pdf>